

MIRAI REPORT

ISSUE. 021

▶根室・サヴォンリナ文化経済ミッション 参加レポート

大地みらい信用金庫本店 本店長 吉田 容広

▶NoMaps釧路・根室2024 vol.1

I カンファレンス1 「2024年問題～地域経済と暮らしへの影響を展望～」

II カンファレンス2 「ガストロノミーツーリズム～地域の食文化が観光客を魅了する～」



「根室・サヴォンリンナ文化経済ミッション」に参加して

近年、巷を賑わせているサウナブーム。皆さまの中にも「ととのう」ことが好きな方が多くいらっしゃると思います。そんなサウナですが、日本に初めて伝来した地が、この道東「根室市」であるということを知っている方はどのくらいいらっしゃるでしょうか。そんな日本におけるサウナ発祥の地においてサウナを観光資源に経済を盛り上げようと、根室市が名乗りを上げました。

2024年7月に実施された根室市のサウナと関係の深いフィンランドでの視察の様様をお届けいたします。

大地みらい信用金庫本店 本店長 吉田 容広

令和6年4月「サウナ伝来の地・根室まちおこし研究グループ」が発足し、メンバーに選任されました。本グループは民間企業、観光団体、国際交流、教育機関、金融機関に所属するメンバーで構成されています。私たちのミッションは、サウナ文化を通じた経済活性化の可能性を模索するため、産学官金等が連携し、アダム・ラクスマン根室来航に由来する「サウナ伝来の地・根室」としての歴史的背景や、ユネスコ世界無形文化遺産登録「フィンランドサウナカルチャーの伝統」について調査研究するとともに、その成果をもって根室市におけるサウナ文化の普及啓発および設備促進等を構想し、地域の発展振興に繋げること。また、アダム・ラクスマンの父キリル・ラクスマン生誕の地である、フィンランド共和国サヴォンリンナ市との友好親善を視野に入れ、5か年計画をもって人的な相互交流の促進を図るという壮大なものです。

この度、「根室・サヴォンリンナ文化経済ミッション」として7月24日～31日の日程でフィンランド訪問の機会をいただきましたので、ご報告させていただきます。

1) 遠い国フィンランド

現在、ロシア上空を通る航空路を飛行できないことから最短距離では行けません。往路は北極上空を迂回する北回りルート、復路はトルコ、カザフスタン、中国上空を経由する南回りルートです。羽田空港から乗り継ぎ地点のフランクフルトまで約15時間です。漸く着陸できると思ったフランクフルト空港上空でまさかの待機。自然保護団体によるテロ行為のため空港が閉鎖されており、ケルン・ボン空港に代替着陸することになりました。

これからどうなるのかという不安でいっぱいのまま荷物を受け取り空港内で待機。しばらくするとフランクフルト空港が再開となり、航空会社のチャーターバスで陸路での移動。気が付くと走行しているのは、制限速度のないことで有名なあのアウトバーンでした。もう二度とない経験と思い車窓を眼に焼き付けながら、ようやくフランクフルト空港に到着しましたが、予想通り空港内は大混雑でパニック状態でした。添乗員さんのおかげで何とか振替便の手配を済ませ再搭乗、ようやくたどり着いたヘルシンキ空港からサヴォンリンナ市へバスで向かい、ホテルに到着したのは20時を回っていましたが私たちはラッキーな方でした。同行したメンバーのうち5名は同じ振替便には搭乗できずバルト三国のひとつ、リトアニア経由のフィンランド入国、ホテル到着は24時を過ぎていました。移動に丸二日を要したことになります。初日スケジュールは全キャンセル、前途多難なスタートになりました。

2) フィンランドって暑いのか？

事前の説明では現地の気温は初夏の北海道、夜間は上着があった方が良いとのことでしたが、私たちが滞在した4日間の気温は25度を超えていました。現地ではバスでの移動でしたが、バスのエアコンが不調、窓が開かない構造で車中は蒸し風呂状態。まさにサウナの旅となるわけです。

ヘルシンキ2泊はホテルでしたが、サヴォンリンナでは築後100年を超える元貴族の家を改装したロッジに2泊。大変貴重な経験となりましたが、エアコンがありません。しかも白夜シーズンのため、22時過ぎまで日が高いのです。室内は暑くて眠れません。22時過ぎまで野外のベンチで涼み語りながら時間を過ごしました。

3) サウナ体験

フィンランド式サウナの伝統はユネスコ文化遺産に登録されています。

最初の体験はスモークサウナ、フィンランドの伝統的なサウナです。煙突のないストーブで薪を燃やし何時間もかけて、サウナ全体を温めます。サウナ中に充満した本場のローリュを満喫した後に他のメンバーがローリュデビュー、ものすごい熱波で全員が屋外避難するエピソードもありました。準備に手間も時間もかかり、火災リスクも高いためスモークサウナは減少しており、貴重な体験となりました。

宿泊したロッジではサウナ併設棟がありましたが、サウナを使うと家全体が熱くなるということで断念、湖畔に設置された近代的なミラーサウナを体験しました。外から室内は見えませんが、室内からは壮大なロケーションが一望、室温は75～80度でセルフローリュ、息苦しさもなく仲間と語り合いながらずっと入っていられます。

この2施設のクールダウンは湖にダイブです。泳げない私は栈橋をがっちりと握り水につかるだけ、本物のサウナーになるためには泳げるようにならないといけないことを学びました。

最後はアッラスシープール、公共サウナです。30人以上は入れる大きなものを含め、大小4つのサウナに、温水、子供、海水と3つのプールとレストランが併設しており、観覧車サウナもあります。フィンランドでサウナは老若男女問わず、仲間や家族、恋人同士が楽しみ語り合いながら過ごすことができる日常的なものであることを体感することができました。

その他、最上階に住人専用のサウナと談話室が設置されているサヴォンリンナ市最古の公営住宅や、サヴォンリンナ市役所ではサウナと併設された会議室等を見学しました。

4) ラクスマン生誕記念式典への参加

フィンランド共和国サヴォンリンナ市からの招聘により根室市長とともに出席しました。

5) 帰国して

羽田泊となりました。宿泊先は空港直結の展望天然温泉で有名な「ヴィラフォンテーヌグランド羽田空港」。長旅の疲れもありましたが、最後のサウナ体験です。日本のサウナは「熱くて苦しい」がフィンランドサウナを体験した各メンバーの感想です。

私の勝手なイメージですが、サウナは「男性の我慢比べの場」でしたが、フィンランドでは自由で開放的、老若男女が楽しめ、伝統的なものから近代的なものまで日常的な社交場になっていました。

これをどうやって根室市に取り入れるのかが私たち研究グループに課せられた今後のミッションです。

根室市が日本のサウナ伝来の地としての歴史的背景と食、自然、野鳥、国境、朝日に一番近い街等、根室市のポテンシャルを融合させたサウナ施設の整備を進めることで観光振興、産業振興、交流人口の増加、移住定住促進による根室市の発展に繋がると信じています。

このような貴重な機会をいただきありがとうございました。

全国のサウナーの皆さま、今後の根室市にご注目ください！！

NoMaps 釧路・根室2024

テーマ

Action! 『ネイチャーポジティブ』 ～未来への選択～

☆NoMapsとは…

北海道という象徴的な開拓の地で、**クリエイティブな発想や技術**によって次の社会を創ろうとする現代的フロンティアスピリットを持った人たちのためのコンベンション「**人、情報、知識、物などの交流の場**」です。2016年、北海道札幌市でその取り組みが始まりました。NoMaps釧路・根室は2019年から始まり、釧路・根室地域の価値創造をテーマに始まりました。釧路・根室地域は、**人口減少、担い手人材の流出、基幹産業の衰退**など、厳しい現状に直面しています。この地域を守り、この地域で生き続けるために私たちは、一人ひとり**想像力を高め**、この地図なき領域を開拓する術（すべ）と力を身につけなければなりません。NoMaps釧路・根室はそのための交流の場であり、地域内外から異分野のクリエイターが集まり、アイデアを出し合い、その**化学反応**を起こし、ワクワクする**地図を描くことを目的**としています。

☆NoMaps釧路・根室2024

○カンファレンス・ミートアップ

日時：令和6年11月21日（木）

会場：港まちベース946BANAYA
(オンライン同時配信)

テーマ：2024年物流問題

ガストロノミー・ツーリズム

サウナ・コンテンツ

ネイチャーポジティブ

地域養殖ビジネス

○高校生ビジネス&地方創生コンペティション

日時：令和6年12月19日（木）

会場：釧路プリンスホテル

The poster for NoMaps Kushiro Nemuro 2024 features a vibrant design with nature-themed illustrations like a dragonfly, a crane, and a deer. The main title is 'Action! アクション! ネイチャーポジティブ Nature Positive' with the subtitle 'Choice for the future 未来への選択'. The event date is 2024.11.21 (Thu) from 10:30 to 18:00 at Port-machi Base 946BANAYA. A grid of six numbered boxes lists activities: 1. Conference, 2. High school business competition, 3. Meetup, 4. University program, 5. e-sports event, 6. Workshop. It also includes contact information and a QR code for registration.

NoMaps 釧路・根室 2024



11.21 木 港まちベース
946BANYA

現地参加・オンライン同時開催

Conference I

11:00-12:00

2024年物流問題

～地域経済と暮らしへの影響を展望～

物流産業の働き方改革に関する法規制が今年4月から適用され、当業界の環境改善が求められる一方、物流の停滞も懸念されます。地域からの生産品の輸送、そして地域への生活品の輸送はどう変わるのか。現状と課題を取り挙げ、物流問題が及ぼす地域経済と暮らしへの影響についてディスカッションしていただきました。

パネラー



経済産業省北海道経済産業局
産業部産業振興課 総括係長

佐々木 悠太 氏



株式会社マルコシ・シーガル
代表取締役社長

早川 元 氏



一般社団法人
北海道商工会議所連合会
物流対策担当部長

福井 邦幸 氏

モデレーター



釧路公立大学
地域経済研究センター
センター長・教授

中村 研二 氏

パネラー 佐々木 悠太 氏

北海道教育大学岩見沢校卒業後、経済産業省（北海道経済産業局）入省。調査部署配属後、中小企業支援業務や帯広市役所出向などを経て、令和5年4月より現職。

行政側としては、限られたドライバーさんいかに効率的に物を運んでいただけるかを考えることが重要と思っています。そこで、特に改善していきたいのが荷待ち時間の短縮と積載率の向上です。改善策を模索していくうえで、利害関係をうまく作れる環境を創出するため、北海道経済産業局では、マッチングイベントを開催しています。

ただ、マッチングはなかなか実現することが難しく、イベントを開催しても協業がたくさん生まれるかという、そうではないのが現状です。ただ、企業同士が話し合いを進められる状況は時間はかかりますが、こうした取組が始まっている、ということが大事だと考えています。

また、最終的にはデジタルでそういった情報を可視化して情報を得られて、なおかつアプローチできる環境づくりを国として取り組んでいきたいです。そして、

そういった物理的な効率化の取組に前向きな事業者さんには、補助金などの様々な面で省庁として応援していきたいと考えています。

パネラー 早川 元 氏

根室市出身。根室市で食品スーパーマーケットの運営、食品の輸出入、海外進出支援コンサルティングをしている。株式会社ヤオコーを経て、株式会社マルコシ・シーガルに2007年入社、2011年から現職。2021年にベトナム・ホーチミン市にてマルコシシーガルベトナムを設立。食品の輸入卸、小売り、コンサルティング業を運営。

現在、当社では商品の7～8割を札幌から仕入れており、1年で362日配送を行うため、毎年細かい見直しをしながら配送を維持している状況です。札幌の物流センターさんに配送の発注をかけ、物流センターさんからベンダーさんに発注、そこで集荷が行われるという流れですが、近年では根室に毎日配送することが難しくなっており、札幌基点では配送費の高騰やリレーが弱点となっています。

そこで当社では、根室から札幌圏に配送している業者の帰路に自分たちの物も運んでくれないかと、地元の人に相談をし、合意に至りました。始めた当初は積載率の課題が出たため、年間のトラック配送計画を立てて無駄を省くことに努め、1~2年ごとに見直しをするようにしました。ただ、計画通りにいかないときもあるため、その場で見直しをして臨機応変に対応しています。

また、根室一苦小牧間でコンテナの輸出も行なっていますが、片道の配送費が以前までは10~15万円でした。昨年から30~40万円に大幅に上昇するなどの問題も生じています。

今後の根室一札幌間の物流は中継輸送を確立させていく必要があると思っています。そして、荷主側である我々も、荷待ち時間や作業の効率化、輸送費の上昇、リードタイムの延長など、受け止めながらも妥協していかなければならない部分があると考えています。

パネラー 福井 邦幸 氏

札幌市生まれ。室蘭工業大学 大学院工学研究科 博士前期課程修了。平成9年、北海道商工会議所連合会に入所。交通や物流、教育など幅広い分野を担当しており、令和6年5月から、GX推進室 道内水素連携マネージャーに就任、現職と兼任。

我々、商工会議所がなぜ物流問題に取り組むのか。それは物流が経済を左右し、特に2024年問題は経済が縮小する危機を及ぼし、消費だけでなく生産にも影響が出るからです。2025年に釧路地域の輸送力は16%低下、2030年には31%低下するといわれていますが、対策を講じると低下率を大幅に抑えることができます。

具体的な対策とは共同配送や積載率を50%に向上させようという取組が挙げられます。現在の釧路地域の積載率は約34%ですので、50%にするには行きを満載、帰りは空の状態や、往復50%ずつが考えられます。

しかしこのような現状で対策を講じている事業者は全体の約1/4程度、全体の約半分は何をしたら良いのかが分かっていませんし、特に受け取る側の荷主さんの認識が弱いようです。

今後の対策として、取引先と消費者側の理解を図ることや企業・業界間での垣根を越えた連携を取る必要がありますので、中継輸送、共同輸送、データの共有がポイントになってくると思います。

例えば、物流基点が札幌や苫小牧に集中している弊害から、帰り荷（送り荷）が無い地域に「物流空白地帯」が多発していることが現状ですが、この対策として、「中継輸送」の実証実験を進めている最中です。

中継輸送とは、今までの札幌一釧路・根室間を、札幌一帯広間、帯広一釧路・根室間で行うことにより、1日で往復できる仕組みです。広大な土地を持つ北海道では、この中継輸送+共同配送の取組が必須です。今後さらに、北海道全体で考えていかなければならない課題です。

モデレーター 中村 研二 氏

早稲田大学政治経済学経済学部卒業、法政大学大学院社会科学部研究科経済学専攻修了。1989年に北海道東北開発公庫入庫、経済企画庁、財団法人北海道東北地域経済総合研究所、株式会社日本政策投資銀行地域企画部、四国支店、株式会社日本経済研究所を経て、2018年より現職。専門は地域経済と地域金融。

2024年物流問題は、特に新聞等で政策サイドの統計的な話を中心にされています。実際に荷主側と物流業者側でどんな問題が起きているのか、またどういう形で物流が流れているのかを情報として共有することができたと思います。

実際この北海道、特に釧路・根室地域の物流が立ちいなくなってしまう、この深刻さをマスコミの皆さんにもっと発信していただきたいですし、こういった場を含めて情報共有をし、自分事としてこの地域の物流を考えるきっかけに繋がればと思います。

*カンファレンス内容の一部を要約しています。カンファレンス1の全容は下記に動画を掲載しています。ぜひご覧ください。

YouTube「NoMaps釧路・根室」で検索🔍

<https://www.youtube.com/watch?v=ABV4DJVqurl>



ガストロノミーツーリズム
～地域の食文化が観光客を魅了する～

その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食を楽しみ、その土地の食文化に触れることを目的としたガストロノミーツーリズム。食のポテンシャルが高い根室・釧路地域で、この新たな観光形態と基幹産業である農水産業とのシナジーを創出することができるのか。その可能性と展開についてディスカッションしていただきました。

パネラー



知床ねむろ観光連盟
事務局長

佐々木 亮介 氏



観光クリエイター

原田 カーナ 氏



シニア インバウンド スペシャリスト

ウェスリー・
ケッペル＝ヘンリー 氏

モデレーター



株式会社ぐるなび
社長兼専務

家中 みほ子 氏

パネラー 佐々木 亮介 氏

紋別市出身。釧路公立大学卒業後は斜里町職員として、行政の立場から観光振興に従事。旅行メディアで編集・ライターの仕事を経て現職。アドベンチャートラベルコーディネーターとして、ATを積極的に推進。道東地域のアドベンチャートラベルネットワークの構築に取り組んでいる。

今年度から、根室管内1市4町のガストロノミーツーリズムを開始しました。一次産業従事者の方との交流、生産しているものを食べることで、AT要素を含めた体験の3点を重視し、酪農や漁業を中心としたツアーを造成中です。各地域をチームとして造成する中で、人材のちぐはぐ感がでてしまいます。ガイディングやストーリーを語るうえで、チームとして一体感を出し、付加価値を向上させる必要があると感じており、今後ガイド人材育成等も含めて磨き上げていく必要があります。

また、コーディネーターとして各地域に頻りに足を運び、産業従事者の方々と向き合いリアルな声を聞いて、どのようにツーリズムに活用できるか判断をしていくことが私の仕事です。外部にいる自分が実際に現場に足を運んで体験すること、コミュニケーションを

取って仕上げていくことが、今後「ガストロノミーツーリズム」を推進していくうえで、重要となる点だと思っています。

パネラー 原田カーナ氏

釧路市出身、在住。ガストロノミーツーリズムを始めとしたコンテンツ作成や、プロモーションなどを手掛けている。

2019年「観光クリエイター」開業。「バスガイドもできるボールペン画家」「釧路観光コンベンション協会DMOサポーター」「Cool釧路市観光大使」としても活躍。

私が得意としているのはインフラツーリズムですが、それでも食文化は重要な要素となっています。厚岸町のカキ祭りや浜中町のホッキ祭り、根室市のさんま祭りなどのイベントもガストロノミーにカウントでき、食文化はどの町でも出来ることで皆さんに関係のある話です。そのうえで、この食べ物がどうやってここまで届けられるのか、生産者や自然環境によってどのように育まれているのかにフォーカスし、そこに価値が付いてきます。

現在、厚岸町でウイスキーと牡蠣を軸にした体験型

ツアーを造成しており、ミズナラ林見学から樽の製造過程見学、ウイスキー蒸留所見学、牡蠣漁師との交流、さらに星空観賞とウイスキーテイastingを組み合わせた複合的な体験の提供を目指しています。その中で難しいのは自然への安全配慮などですが、それよりも苦労するのが地元住民との合意形成を図ることです。提供する側の人気が持ちよく提供できる環境づくりです。地元の方が楽しんでいないと、外の人に伝わりません。ツアー参加者へのアンケートやヒアリングも大事ですが、事業者さんや生産者さん、自治体の声をしっかり聞き取り、拾い上げることがコーディネーターとして何よりも重要だと考えています。

パネラー

ウェスリー・ケッペル ＝ヘンリー氏

アメリカ出身。カリフォルニア大学バークレー校を卒業。2012年来日、東日本大震災の避難者が通う学校で英語を教える。その後、観光ウェブサイトの編集長を務め、主に東北の観光について幅広い知見を得る。現在は欧米豪向けの旅行会社、The Hidden Japan合同会社でインバウンドツアー企画、ガイド、プロモーションなど多岐にわたり担当。

The Hidden Japan合同会社では、インバウンド向けにガストロノミーツアーを企画運営しています。インバウンド観光においては、日本の食文化への理解と尊敬が深く、製造過程や背景、知識への関心が高いことが特徴です。そのうえで、4つの階層があると考えています。第1層は「クライマックス」である食事。第2層は「物語の盛り上がり」であるシェフの技法。第3層は「登場人物」である食材。第4層は「舞台」である風土です。風土は食材が生産される自然環境全体を指します。

現在、当社で代表的な企画となっているのが、「海から食卓への体験」といった、「〇〇から□□への体験」シリーズです。例えば、「農家からバーへ」「畑から食卓へ」など、様々な食材にフォーカスしながらの体験ができる代表格となりました。また、食材だけではなく、「鍛冶と寿司」「鋳物製作と日本酒」など、食に関する重要な道具を用いた体験にも応用できます。また、この体験の中で重要なのは、ツアー参加者と地元住民の交流が図られることです。

釧路・根室地域もガストロノミーツーリズムのポテンシャルが高い地域だと思いますので、インバウンドの方へ何をどう伝え、どんな体験を提供できるか一緒に考えていきましょう。

モデレーター

家中みほ子氏

数多くのガストロノミーツーリズム調査に従事。2022年にはガストロノミーツーリズム世界フォーラムにてモデレーターとして登壇。観光庁「地域一体型ガストロノミーツーリズムの推進事業」の専門家を2年連続で務める。

ガストロノミーとは「高級」「美食」ではなく、食を通じてその地域のことを理解し、知ることです。ガストロノミーツーリズムの効果には5点あります。①地域の差別化・競争力強化 ②体験、意味重視へ変化するターゲット層への対応 ③訪問することへの強い動機付け ④旅行者とのコミュニケーションやPRに重要なストーリー作成が容易なこと ⑤食文化体験で満足度向上を図りリピーターを育成することが挙げられます。時間や労力、お金をかけるだけの意味があるのが絶対的な価値として定義されます。

どんな地域にもその地域固有の食文化があります。中でも地域の飲食店は文化のショーケースであり、観光のキープレイヤーです。地域の中で事業者が連携して、地域の中に収益が分配されることが重要です。無理して作るのではなく、「今あるもの」をしっかりと認識して、どう組み立てて、どう巻き込んでいくのかを考える必要があります。地域住民が疲弊するようなツーリズムでは持続性がありません。地域住民の方々が誇りを持って関わっていくことが重要なのです。

*カンファレンス内容の一部を要約しています。
カンファレンス2の全容は下記に動画を掲載しています。
ぜひご覧ください。

YouTube「NoMaps釧路・根室」で検索🔍

<https://www.youtube.com/watch?v=sxoBOh3I35Y&t=2379s>



2024.12

MIRAI REPORT ISSUE.021

 **大地みらい信用金庫** 経営企画部
地域みらい創造センター